



『令和7年度全国学力・学習状況調査』の結果について



4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。6年生児童は、国語、算数、理科の成果や課題を確認し、次の目標に向かって取り組んでいるところです。今回は、全国、県との比較を踏まえ、成果や課題について分析した結果をご報告します。また、合わせて行われた児童への質問についても、良かった点と課題となる点について分析しました。

【国語】

(1) 成果（正答率％）

- ・【言葉の特徴や使い方に関する事項】2四(ア)(イ)
学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題(100%)
- ・【書くこと】2二
図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題(100%)
- ・【読むこと】3二(1)
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題(100%)

(2) 課題

- ・【話すこと・聞くこと】1一
目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりしたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題（33.3%）
（誤答）発言の意味や役割を捉えられていない。
- ・【読むこと】3三(1)
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる（33.3%）
（誤答）話し合いの流れを捉え、発言の内容を正しく表す情報を結びつけられていない。
- ・【書くこと】2三
目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題(50.0%)
（誤答）字数の条件を気にしすぎたためか、内容に関する指定された条件を完全に満たすことができていない。

(3) 今後の取組

- 目的に応じた話し合いの仕方があることを理解するとともに、実際の話し合い活動では、それぞれの役割や発言の意味、効果を確認めながら体験させ、よりよい話し合いの進め方を身に付けていく。
- 文章を書く際に構成メモを用いて、児童自らが書く内容を確実に理解できるようにするなど、文章の構成を意識できるような学習を行う。

【算数】

(1) 成果（正答率％）

・【C 測定】4(3)

はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む。(100%)

・【A 数と計算】1(4)

示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる問題(83.3%)

・【B 図形】2(3)

角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題(83.3%)

・【A 数と計算】4(1)、(2)

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる(83.3%)

(2) 課題

・【D データの活用】1(2)

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題(16.7%)

(誤答)「出荷量」と「出荷量の割合」の意味が混在していると考えられる。

・【B 図形】2(2)、2(4)

台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題(16.7%)

(誤答)「上下に向かい合った一組の辺が平行である」という台形の性質が理解していないことが挙げられる。

基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題(33.3%)

(誤答)図形の面積の求め方(公式)が使えるような見方が不十分である。

・【A 数と計算】3(2)

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題(16.7%)

(誤答)通分について記述し、問題に合った記述ができていない。

(3) 今後の取組

○朝学等を有効的に活用して、それぞれの学年で習得すべき知識・技能を身に付けられるようにする。

必要に応じて、反復練習を行う。

○計算の意味や仕方、求め方を確かめる際には、それらの意味を視覚的に理解できるような工夫を取り入れた授業を意識して行う。

例) 面積図を用いて、単位分数を捉えられるようにする。

公式の意味や図形の性質を図を使いながら確認する。

【理科】

(1) 成果(正答率%)

・【「地球」を柱とする領域】1(1)

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題(100.0%)

・【「生命」を柱とする領域】3(1)

ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題(100.0%)

・【「エネルギー」を柱とする領域】2(3)

電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題(83.3%)

(2) 課題

・【「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域】2(1)

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題(16.7%)

(誤答) 金属の共通する性質として、電気を通すという知識が身に付いていないと考えられる。

・【「エネルギー」を柱とする領域】2(2)

電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題(33.3%)

(誤答) 「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれている電気の回路を選択しており、電気を通すつなぎ方に関する知識が身に付いていないと考えられる。

・【「粒子」を柱とする領域】4(3)力

水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題(16.7%)

(誤答) 「水は、冷えると0℃で氷に変わる」を根拠に、海にある氷の面積が減少したことの理由として、「水は、氷になるとき体積が増える」と誤って捉えている。温度が下がると氷ができることと、「氷になるとき体積が増える」ことを関連付けて思考していると考えられる。このことから、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することに課題があると考えられる。

(3) 今後の取組

○朝学等を有効的に活用して、それぞれの学年で習得すべき知識・技能を身に付けられるようにする。

既習学年の学習内容について、やまぐち学習支援プログラムのプリントなどを用いて重点内容を思い出したり、確認したりできるようにする。

全教科での今後の取り組み

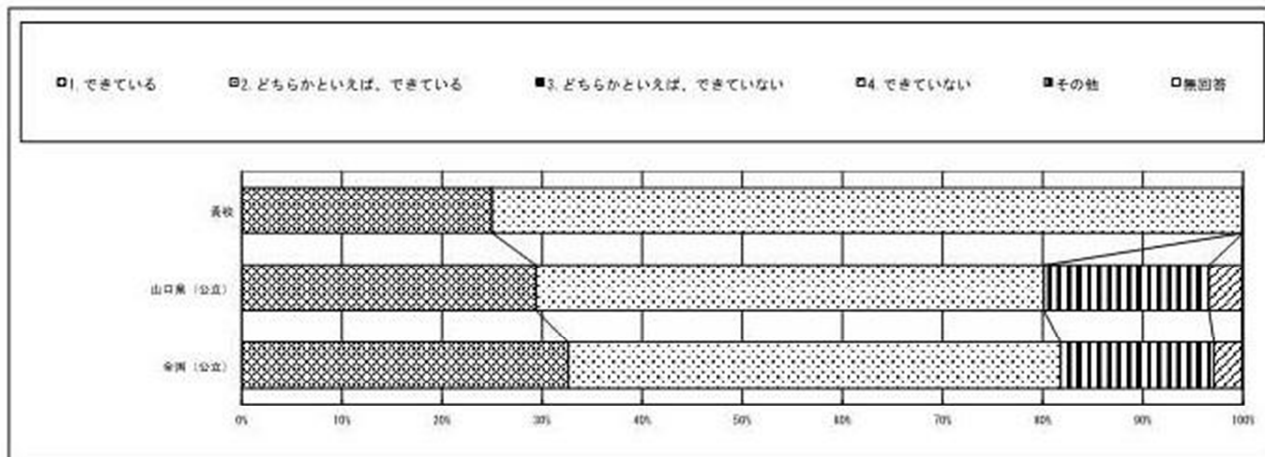
○全ての学習において、考え方の根拠やわけを押さえて、相手に伝えたり、文章で表現したりすることに取り組む。

○やまぐち学習支援プログラムのプリントの活用や日々の授業、家庭学習などにおいて、その学年で身に付ける基礎基本や当該学年までの学習内容の定着を図る。

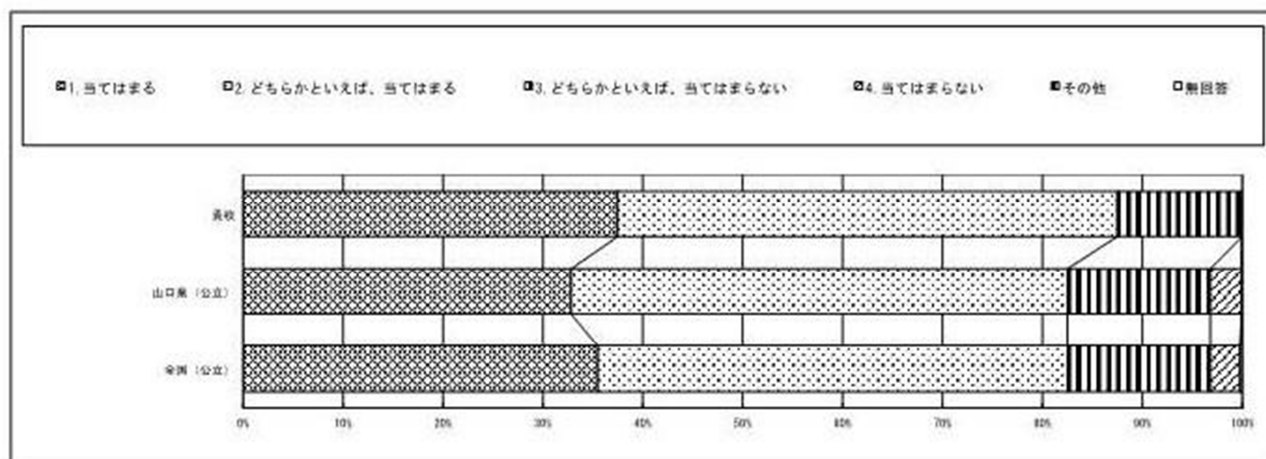
【児童質問紙】

(1) 成果

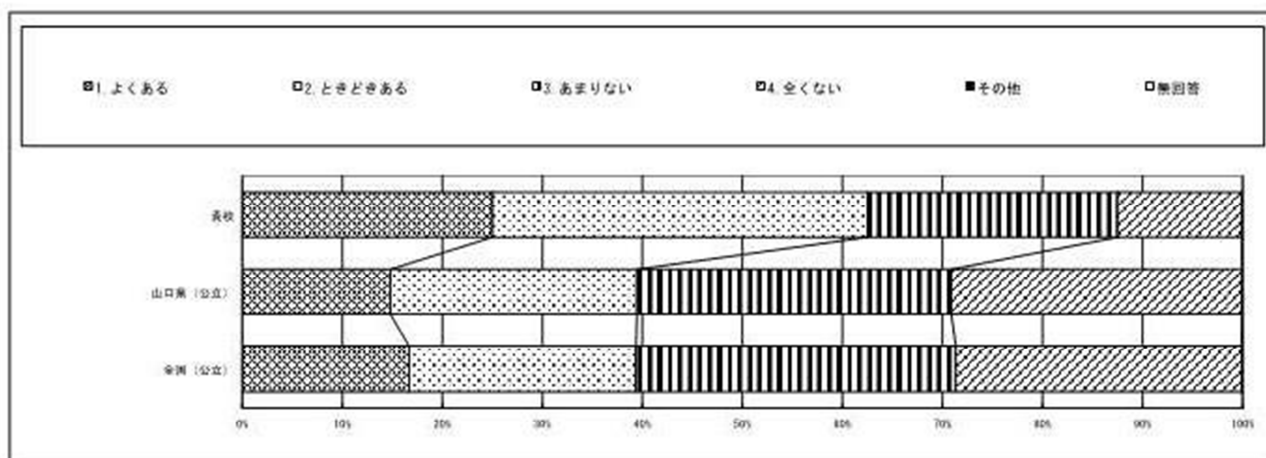
①分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



②授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるといいますか。

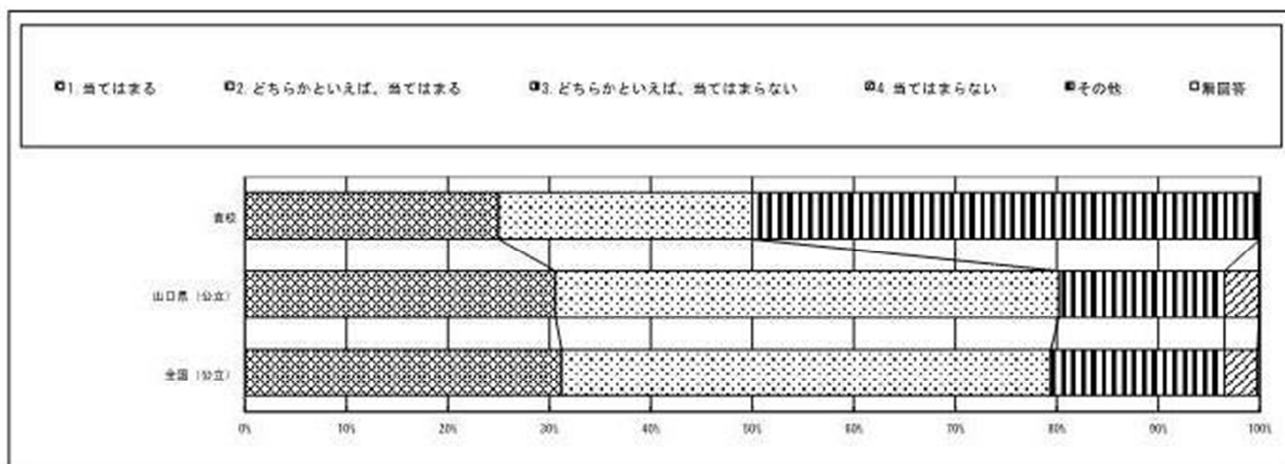


③地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。(習い事は除く)

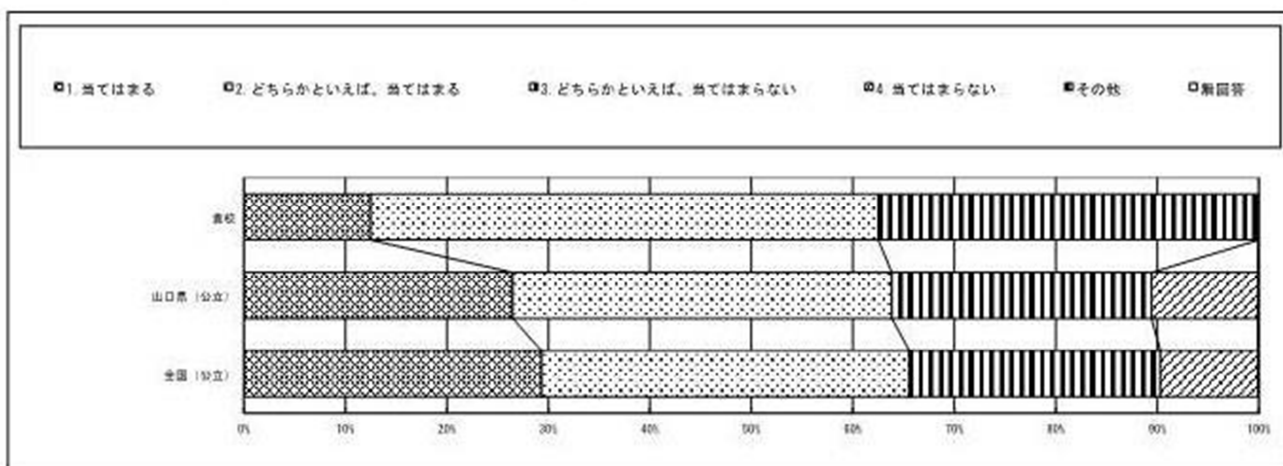


(2) 課題

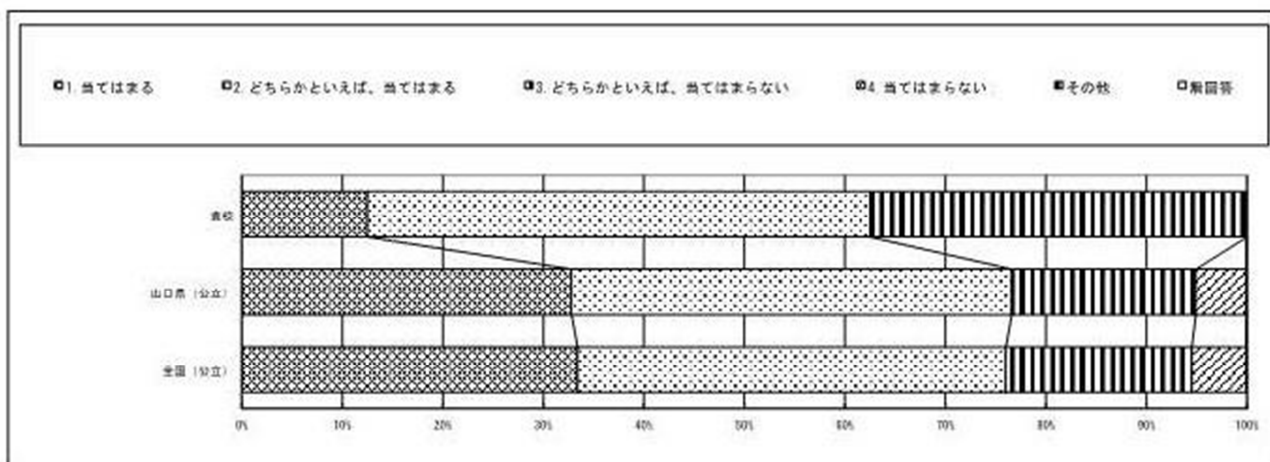
① 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



②算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。



③理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。



(3) 考察

【成果○】

- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。」の質問に対して、全員が肯定的評価であった。自分で学習しようとする意欲が高く、学び方を理解しており、引き続き主体的な学びをさらに進めていきたい。
- 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか。」の質問に対して、8割の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している。他教科や生活と関連付けた学びができていると考えられる。
- 「地域の大人の人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。(習い事は除く)」の質問について、「よくある」「ときどきある」と回答した児童が多かった。普段から地域連携を意識した活動の成果と言える。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問では、8割の児童が肯定的な回答であった。児童が地域とのつながりを実感したり地域の一員としての意識が高められていると言える。今後もふるさとを教材にした学習を積極的に進めていきたい。

【課題●】

- 「学習した内容で分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」は、あまりできていないとの回答が高かった。授業の振り返りでは、まずは自分自身のことについて丁寧に振り返ることができるようにしたい。また、そのような振り返りを教員が目を通して、次時の学習で再度確認したり、つなげたりすることで学習内容を見に確実に身に付けられるようにする必要がある。
教科別に注目すると、「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」の質問に対して、「どちらかといえば当てはまらない」に回答した児童が3割だった。観察・実験などで結果を得るだけに留まっていると考えた。考察する際に「観察・実験の進め方は正しくできていたか。」「よりよい方法は、ないか。」などの視点で振り返ることを取り入れていきたい。
- 「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。」の質問に対しては、3割の児童が「どちらかといえば当てはまらない」と回答していた。自分の考えを表現する機会を増やしていくとともに、児童が説明の活動を行いやすいような手立てを教師が講じていく必要がある。